美点凝視

第 3 号
H 2 3 . 5
狭山台小学校
学校だより

ゴールデンウィークです

木々の緑が目まぶしく感じられる季節になりました。吹く風も爽やかに感じられ思い切り深呼吸をしたくなります。

学校では、子どもたちが楽しそうにグラウンドを走り回る姿が見られます。新しい環境に慣れ、希望に満ちているのではないのでしょうか。そんな姿を見て、元気をもらっています。四月下旬から五月のはじめにかけて

て、ゴールデンウィークで祝日が続きます。

先日のお話朝会で、祝日にはそれぞれ、「国民の祝日に関する法律」で定められた趣旨があるということをお話しました。

例えば、「昭和の日」は、「激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす」と規定されています。戦争に負けて、焼け野原になり、世界の中でも貧しい国の一つとして多く

5月行事予定

日 曜	行事予定	日 曜	行事予定
1 日		17 火	特 5 音楽朝会、家庭訪問
2 月	交通安全教室(1年)	18 水	特 5 家庭訪問
3 火	憲法記念日	19 木	全校除草、お弁当の日、遠足2年、クラブ
4 水	みどりの日	20 金	特5 読み聞かせ、家庭訪問
5 木	こどもの日	21 土	
6 金	特5 読み聞かせ、心電図(1年)、離任式	22 日	
7 土		23 月	検尿配布
8 日		24 火	児童朝会、検尿回収、内科健診12年、応援団会議
9 月	安全点検日、救命救急法	25 水	知能検査25年、補習タイム、検尿回収、耳鼻科健診135年
10 火	特 5 体育朝会、家庭訪問	26 木	学年朝会、遠足1年、クラブ
11 水	特 4 狭山市教育研究会	27 金	読み聞かせ、社会科見学4年
12 木	心豊かな日、プール清掃、委員会	28 土	
13 金	特5 読み聞かせ、家庭訪問	29 日	
14 土	学校公開、引渡し訓練	30 月	内科健診34年
15 日		31 火	お話朝会
16 月	内科健診56年	1 水	

の国に力を借りた日本が、これだけ豊かな国になり得たのは、昭和の時代を生きた人々の努力があるということを考えると共に、現在、国難とも言える東日本大震災や福島原子力発電所の事故により多大な被害を受けた地域の復興と将来の日本をみんなで作る日になればと考えています。

ご家族で話し合ってみてください。病気や交通事故に気をつけて、ゴールデンウィーク明けに、みんなが元気に登校できるよう願っています。

家庭訪問です。よろしく

連休明けの十日から家庭訪問が始まります。概ね十分程度の訪問になりますが、よろしくお願い致します。

家庭訪問の目的をいくつか紹介します。

- 子どもの学校での様子、家庭での様子を情報交換する。
- 保護者の教育や躾についての考え方を伺う。
- 保護者の子どもへの心配や悩みについて伺う。
- 子どもの将来についての期待や願望をお聞きする。
- 担任自身の教育についての考え方や、あるいは担任自身を知っていただく。
- 無理があるかと思えます。保護者の皆さんが一番関心のあることの見交換が出来れば良いのではないかと思います。まずは、相互の親近感を高めるのが第一の目的です。

補習タイムについて

今年度から四月と八月を除いた第二土曜日が三時間の授業日となり、年間十週三十分と開校記念日の5時間を合わせて三十五時間を生み出します。

この年間三十五時間という数字は、毎週1時間授業を実施した場合の

【国民の祝日】
こんな日に来たらいいですね。

- 憲法記念日(五月三日)
日本国憲法の施行を記念し、国の成長を期する。
- みどりの日(五月四日)
自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ。
- こどもの日(五月五日)
子どもの人格を重んじ、子どもの幸福を図るとともに、母に感謝する。

わが家では、五月五日のこどもの日は必ず行う行事がありました。それは、裏山にお弁当とお菓子を持って、家族でワラビ採りに行くことでした。

現在のようにテーマパークや観光地に行くのではありません。残ったが、今でも楽しい思い出として残っています。

年間の時数となります。このことにより、今年度から授業時数が週一時間増加する一・二年生の増加分を賄います。

三年生以上は、今年度からの時数の増加はありませんので、土曜日と開校記念日によって生み出した週一時間、年間三十五時間分を今までの週時程から引くこととなります。

その結果、三年生以上は昨年度まで水曜日が六時間でしたが、五時間とします。

その削除した一時間のところに、「補習タイム」を設定しました。

授業内容が定着できなかった児童に対して、昨年度までは、下校時刻の関係で放課後、補習をしてあげた余裕がなく、何とかしたいと考えていた先生方が、この一時間を子どもたちのために使いたいと考えたのです。

「できた喜びを一人でも多くの子どもたちに味わわせたい。」そんな願いのこもった一時間です。